

## 相談支援部会の活動について

経緯	相談支援部会
目的	相談支援事業における課題を整理し、また相談支援事業に携わる関係者同士のネットワークを構築することにより、障害のある方が安心してサービスを利用し、日常生活や社会生活を営むことができるよう相談支援事業の充実を図る。
役割・内容	主要課題である相談支援専門員の数の確保と質の向上について模索・検討する。
部会員 (R3年度)	自立支援協議会委員 3名 関係機関：静岡市支援センターなごやか（部会長）、静岡済生会療育センター令和「やさしい街に」、地域生活支援ネットワークコーディネーター、特定相談支援事業所、障害者相談支援推進センター、障害福祉企画課、障害者支援推進課、精神保健福祉課 事務局：はーとぱる
活動実績	<p>年2回の部会での活動に加えて、下記の取組を行った。</p> <p><b>令和元年度 活動実績</b></p> <p><b>1 相談支援事業所リストの作成（毎年実施）</b> ・相談支援事業に携わる相談員同士のネットワークを構築するため、全ての相談支援事業の事業所ごとの相談員のリストを作成した。</p> <p><b>2 KASANのトリセツ</b> ・加算について理解を深める目的で「KASANのトリセツ」を作成し、市内全計画相談支援事業所に配布した。</p> <p><b>3 訪問調査</b> ・相談支援事業所が抱える課題や、今後、相談支援部会で取り組みたい課題を把握するために、全ての委託相談事業所及び計画相談事業所に訪問調査を行った。</p> <p><b>4 勉強会の実施</b> ・相談員が日頃の相談業務の中で課題と感ずる内容について、勉強会を開催した（計6回） テーマ ・委託と特定のすみわけについて、加算について など</p> <p><b>令和2年度 活動実績</b></p> <p><b>1 「利用者・事業所へのお願いチラシ」の作成</b> ・利用者や事業所に対して、改めて計画相談の業務内容を周知し、理解してもらうことで、計画相談の業務における緊密な連携と、計画相談事業所の負担軽減を図るため、チラシを作成し、計画相談支援事業所に配布した。</p> <p><b>2 勉強会の実施</b> ・コロナを通じて緊急事態を考えるというテーマで、グループワークを実施した。 内容：コロナ禍での事業所の対応、コロナ感染疑い時の対応、災害時の対応</p>

## 令和3年度 活動実績

### 1 災害時避難行動要支援者への支援

- ・地域生活支援部会の災害プロジェクトチームと連携し、防災について学ぶとともに、モデル事業の個別避難計画を作成した。

### 2 障害分野と高齢分野との連携の検討

- ・障害分野と高齢分野の連携について課題を整理し、利用者の移行や各制度について、お互いの支援者がお互いの分野を理解し円滑な連携が図れる関係を構築できるよう、ケアネット協会や地域包括支援センターを交えて検討を行った。

今後、障害分野から高齢分野への移行の際の注意事項や手順をまとめた「各支援者向けの説明資料」を作成予定。

### 3 勉強会の実施

- ・相談支援専門員の数の確保と質の向上を図ることを目的に、勉強会を開催した。  
(内容) 1 複数の特定・障害児相談支援事業所の協働による機能強化型サービス利用支援費 I の取り方について  
2 上記加算に関する好事例紹介  
3 計画相談・委託相談の連携支援の好事例紹介

今後の予定  
方向性など

### 1 災害時避難行動要支援者への支援

- ・静岡市の「個別避難計画策定モデル事業」の実績及びWGメンバーの作成した「個別避難計画」の内容についてフィードバック
- ・令和4年度以降の「個別避難計画」策定について検討
- ・防災についての学習会を継続的に開催
- ・計画を担当している利用者の被害想定を把握し、優先度の高い方から避難について検討

### 2 障害分野と高齢分野との連携の検討

- ・障害・高齢のお互いの支援者がお互いのことを理解することが連携には必要であり、引継ぎ際の注意事項や移行の手順等を示した「支援者向けの説明資料」の作成を高齢分野の方々とも検討を重ねていく。
- ・来年度も今年度の取組を継続し、障害分野から高齢分野への移行について「支援者向けの説明資料」を作成。令和5年度からの配布、利用を目指す。

### 3 勉強会の実施

- ・相談支援専門員の数の確保と質の向上を図るため、今までの勉強会などで話題にあげられた内容について、課題となるものを整理し、優先順位の高いものから今後の勉強会の内容を決定する。